

平成20年2月期 第3四半期財務・業績の概況

平成20年1月18日

上場会社名 株式会社カンセキ 上場取引所 JQ  
 コード番号 9903 URL <http://www.kanseki.co.jp>  
 代表者(役職名) 代表取締役社長 (氏名) 長谷川 静夫  
 問合せ先責任者(役職名) 執行役員 経理部長 (氏名) 高橋 利明 TEL (028) 659-3112

(百万円未満切捨て)

1. 平成20年2月期第3四半期の連結業績(平成19年3月1日～平成19年11月30日)

(注) 当社は、平成19年8月中間期より連結財務諸表を作成しているため、前年同期の実績及び比較は記載しておりません。

(1) 連結経営成績 (%表示は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期(当期)純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
20年2月期第3四半期	25,449	—	462	—	12	—	△97	—
19年2月期第3四半期	—	—	—	—	—	—	—	—
19年2月期	—	—	—	—	—	—	—	—

	1株当たり四半期(当期)純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益
	円 銭	円 銭
20年2月期第3四半期	△6 55	—
19年2月期第3四半期	—	—
19年2月期	—	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
20年2月期第3四半期	29,855	4,052	13.6	273 66
19年2月期第3四半期	—	—	—	—
19年2月期	—	—	—	—

(3) 連結キャッシュ・フローの状況

	営業活動によるキャッシュ・フロー	投資活動によるキャッシュ・フロー	財務活動によるキャッシュ・フロー	現金及び現金同等物期末残高
	百万円	百万円	百万円	百万円
20年2月期第3四半期	834	△369	△629	844
19年2月期第3四半期	—	—	—	—
19年2月期	—	—	—	—

2. 配当の状況

	1株当たり配当金		
	中間期末	期 末	年 間
(基準日)	円 銭	円 銭	円 銭
19年2月期	—	2.50	2.50
20年2月期	—		2.50
20年2月期（予想）		2.50	

3. 20年2月期の連結業績予想（平成19年3月1日～平成20年2月29日）

【参考】

(%表示は対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通 期	33,970	—	630	—	100	—	50	—	3 38

4. その他

- (1) 期中における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）： 無
- (2) 会計処理の方法における簡便な方法の採用の有無： 有
- (3) 最近連結会計年度からの会計処理の方法の変更の有無： 無

〔注〕 詳細は、5ページ【定性的情報・財務諸表等】 4. その他をご覧ください。〕

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

上記の業績予想につきましては、本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであります。実際の業績は、今後、様々な要因によって予想数値と異なる可能性があります。

当期の連結業績予想に関しましては、本日公表の「平成20年2月期の業績予想の修正に関するお知らせ」をご参照ください。

## 【定性的情報・財務諸表等】

### 1. 連結経営成績に関する定性的情報

当第３四半期（平成19年3月1日～平成19年11月30日）における国内経済は、企業収益の改善により設備投資が引続き堅調に推移している等、景気全体は緩やかな回復基調であるものの、サブプライムローン問題に端を発した株価下落、賃金回復の遅れや、原油価格の高騰による石油製品の値上げ、小麦の高騰など一般消費動向に影響を与えるなど、今後の景気を不透明な状況にしております。当社が展開するエリア内においては業種業態を超えた新規出店による競合激化の影響があり、依然として厳しい経営環境であります。

主たる事業については、以下のとおりであります。

#### <ホームセンター事業>

ホームセンター事業において、スマイルカード会員の獲得を強化するとともに、会員向けのDMを中心に販売促進を行いました。残暑の影響で気温が高く秋冬の季節商品が不振でありましたが、園芸関連は堅調に推移いたしました。住宅着工数の減少によるDIY用品及びインテリア関連に影響が出ております。その結果、当該事業の売上高及び営業収入は189億85百万円となりました。ホームセンター事業は店舗数32店舗であります。

#### <WILD-1事業>

WILD-1事業においては、平成19年9月にWILD-1印西ビッグホップ店（千葉県印西市）を開店いたしました。オープン後着実に売上を伸ばしております。アウトドア用品の中でウェア関連が好調に推移いたしました。店舗数は15店舗になりました。当該事業の売上高及び営業収入は38億76百万円であります。

#### <食品販売事業>

食品販売事業は第一号店である業務スーパー佐野店の開店より3年を経過し店舗数11店舗となり、お客様へ高品質・低価格の食材を提供する店としての認知度の高まりとともに当グループの収益に貢献しております。当該事業の売上高及び営業収入は21億92百万円であります。

#### <不動産賃貸事業>

不動産賃貸事業は、アミューズメント施設の収入の増加により売上を伸ばすとともに既存の不動産賃貸収入も堅調に推移し、当該事業の売上高及び営業収入は7億74百万円であります。

#### <オフハウス事業>

オフハウス事業ではお客様のリユース、リサイクルのニーズに応え、順調に収益をあげております。店舗数は8店舗。当該事業の売上高及び営業収入は6億44百万円であります。

#### <飲食事業>

平成19年9月に飲食事業を主体とした株式会社バーン（栃木県）を設立いたしました。飲食事業は子会社の設立後間もないこともあり売上高及び営業収入は61百万円であります。

この結果として、当第3四半期の売上高及び営業収入は265億25百万円となりました。利益面におきましては在庫の改善に取組み成果を上げましたが、新規出店によるコストの増加等により、営業利益は4億62百万円、経常利益は12百万円、ポイント引当金繰入等の特別損失の発生により四半期純損失は97百万円となりました。

なお、当社は平成19年8月中間連結会計期間より連結財務諸表作成会社となったため、前年同期比は記載しておりません。

## 2. 連結財政状態に関する定性的情報

### ① 財政状態の変動状況

当第3四半期末の総資産は298億55百万円でありましたが、そのうち流動資産は75億35百万円、固定資産は223億18百万円、繰延資産は1百万円となりました。

また、当第3四半期末の負債合計は258億3百万円でありましたが、そのうち流動負債は112億21百万円、固定負債は145億81百万円となりました。

当第3四半期末の純資産は40億52百万円、自己資本比率は13.6%となりました。その結果、1株当たり純資産額は273円66銭となりました。

### ② キャッシュ・フローの状況

当第3四半期における現金及び現金同等物（以下「資金」という）は、8億44百万円となりました。

（営業活動によるキャッシュ・フロー）

営業活動の結果得られた資金は、8億34百万円となりました。

これは主に、減価償却費3億60百万円、仕入債務の増加額12億14百万円により資金が得られましたが、新店舗の増加によるたな卸資産の増加額4億51百万円により資金を使用したことによるものであります。

（投資活動によるキャッシュ・フロー）

投資活動の結果使用した資金は、3億69百万円となりました。

これは主に新店（ホームセンター神栖店・高萩店、WILD-1印西ビックホップ店、業務スーパー真岡店、オフハウス鹿沼店、楽々市駅東店）などの有形固定資産の取得による支出4億20百万円及び保証金・敷金の取得による支出80百万円でありませんが、差入保証金・敷金の回収による収入2億66百万円との相殺後の純支出であります。

（財務活動によるキャッシュ・フロー）

財務活動の結果使用した資金は、6億29百万円となりました。これは主に借入金の返済及び社債の償還によるものであります。

なお、当社は平成19年8月中間連結会計期間より連結財務諸表作成会社となったため、前年同期比は記載しておりません。

## 3. 連結業績予想に関する定性的情報

当期の連結業績予想に関しましては、本日公表の「平成20年2月期の業績予想の修正に関するお知らせ」をご参照ください。

#### 4. その他

(1) 期中における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）

連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動については、該当事項はありません。

また、当期中において当社100%出資により、株式会社茨城カンセキ及び株式会社バーンを設立しております。

(2) 会計処理の方法における簡便な方法の採用

（内容）たな卸資産については、実地たな卸を省略しております。

その他影響額が僅少なものについては、一部簡便な方法を採用しております。

(3) 最近連結会計年度からの会計処理の方法の変更

平成19年8月中間期より連結財務諸表を作成しているため、該当事項はありません。

5. (要約) 四半期連結財務諸表

(1) (要約) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

科 目	当四半期末 (平成20年2月期第3四半期末)
	金 額
(資産の部)	
I 流動資産	
1. 現金及び預金	907,262
2. 売掛金	250,348
3. たな卸資産	5,529,674
4. その他の流動資産	848,334
流動資産合計	7,535,620
II 固定資産	
1. 有形固定資産	17,111,127
2. 無形固定資産	783,327
3. 投資その他の資産	4,423,908
固定資産合計	22,318,363
III 繰延資産	1,417
資産合計	29,855,400
(負債の部)	
I 流動負債	
1. 支払手形及び買掛金	4,919,360
2. 短期借入金	5,438,107
3. 一年内償還予定の社債	106,000
4. その他の流動負債	758,332
流動負債合計	11,221,799
II 固定負債	
1. 社債	265,000
2. 長期借入金	12,585,452
3. その他	1,731,048
固定負債合計	14,581,500
負債合計	25,803,300
(純資産の部)	
I 株主資本	
1. 資本金	1,926,000
2. 資本剰余金	1,864,000
3. 利益剰余金	497,399
4. 自己株式	△231,872
株主資本合計	4,055,526
II 評価・換算差額等	△3,426
純資産合計	4,052,100
負債・純資産合計	29,855,400

(2) (要約) 四半期連結損益計算書

(単位：千円)

科 目	当四半期 (平成20年2月期第3四半期)
	金 額
I 売上高	25,449,897
II 売上原価	18,634,651
売上総利益	6,815,246
III 営業収入	1,075,741
営業総利益	7,890,987
IV 販売費及び一般管理費	7,428,330
営業利益	462,657
V 営業外収益	14,565
VI 営業外費用	464,424
経常利益	12,797
VII 特別利益	266
VIII 特別損失	117,016
税金等調整前四半期純損失	△103,952
税金費用	△6,532
四半期純損失	△97,419

(3) (要約) 四半期連結株主資本等変動計算書

当四半期（自 平成19年3月1日 至 平成19年11月30日）

(単位：千円)

	株主資本					評価・換算差額等		純資産 合計
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本 合計	その他有 価証券評 価差額金	評価・換 算差額等 合計	
平成19年2月28日残高	1,926,000	1,864,000	632,174	△208,032	4,214,141	17,142	17,142	4,231,283
当四半期中の変動額								
剰余金の配当			△37,355		△37,355			△37,355
四半期純損失			△97,419		△97,419			△97,419
自己株式の取得				△23,840	△23,840			△23,840
株主資本以外の項目の 当四半期中の変動額(純額)						△20,568	△20,568	△20,568
当四半期中の変動額合計	—	—	△134,775	△23,840	△158,615	△20,568	△20,568	△179,183
平成19年11月30日残高	1,926,000	1,864,000	497,399	△231,872	4,055,526	△3,426	△3,426	4,052,100

(4) (要約) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

区 分	当四半期 (平成20年2月期第3四半期) 金 額
I 営業活動によるキャッシュ・フロー	
1. 税金等調整前四半期純損失	△103,952
2. 減価償却費	360,485
3. 支払利息	459,601
4. たな卸資産の増加額	△451,077
5. 仕入債務の増加額	1,214,392
6. その他	△96,672
小 計	1,382,776
7. 利息の支払額	△463,854
8. その他	△84,712
営業活動によるキャッシュ・フロー	834,210
II 投資活動によるキャッシュ・フロー	
1. 有形固定資産の取得による支出	△420,605
2. 保証金・敷金の取得による支出	△80,319
3. 保証金・敷金の回収による収入	266,951
4. 預り保証金・敷金の払戻による支出	△33,985
5. 預り保証金・敷金の取得による収入	1,878
6. その他	△103,073
投資活動によるキャッシュ・フロー	△369,154
III 財務活動によるキャッシュ・フロー	
1. 短期借入金の純減少額	△1,749,250
2. 長期借入れによる収入	2,300,000
3. 長期借入金の返済による支出	△1,041,877
4. 社債の償還による支出	△78,000
5. 自己株式の取得による支出	△23,840
6. その他	△36,648
財務活動によるキャッシュ・フロー	△629,615
IV 現金及び現金同等物に係る換算差額	—
V 現金及び現金同等物の減少額	△164,559
VI 現金及び現金同等物の期首残高	1,009,316
VII 現金及び現金同等物の期末残高	844,757